

## 中学生用防災 e ラーニング教材を活用した一斉防災教室の実施

海田町立海田西中学校

校 種	中学校・義務教育課程後期課程・中等教育学校前期課程・特別支援学校中学部	本時に関わる 資質・能力	知識・技能	◎
			思考力・判断力・表現力等	○
			学びに向かう力	○
対象学年等	1・2・3 学年			
教科等	特別活動			
内容等	単元2・単元4を活用「災害への備えを考えよう」			

### 1 目標

特別活動において育成すべき資質・能力は次の通り。

知識・技能	○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることへの理解や技能。
思考・判断・表現	○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

また、学校安全の目指すべき姿の一つは、「全ての児童生徒等が、自ら適切に判断し、主体的に行動できるように、安全に関する資質・能力を身に付けること」。

### 2 本時の目標

- 一人一人が土砂災害や風水害への備えとして、災害危険箇所、避難経路、避難のタイミングの確認等を行う。
- 危険に備える心構えや防災に対する意識をもたせる。

### 3 概要

県危機管理監みんなで減災推進課が作成した「中学生防災 e ラーニング教材」の8つの単元のうち、生徒に身に付けさせたいテーマ2つを組み合わせ、1時間の授業として実施した。

### 4 中学生用防災 e ラーニング教材との関わり

本単元での活用		防災テーマ
○	基礎	単元1 大雨や台風によって起こる災害の種類と私たちの暮らし
		単元2 災害の危険性や避難先を確認しよう！
単元3 身を守る情報を知って行動しよう！		
単元4 災害への備えをしよう！		
○	応用	単元5 防災対策における3つの主体と役割を理解しよう！
		単元6 大雨警報が出たらどうする？～シミュレーション課題～
		単元7 プラスワン演習問題集
		単元8 マイ・タイムライン（自らの防災行動計画）を作ってみよう！

- 単元2 [災害の危険性や避難先を確認しよう！]

ハザードマップの読み取り方を理解して、身近な地域の自然災害の危険性を判断し、避難先や避難経路を考える。

- 単元4 [災害への備えをしよう！]

災害に対する日頃からの備えや、災害の危険が間近に迫った時の行動を理解し、それについて家族などと話し合い、災害への備えについて理解をする。

## 5 事前・本時の学習過程

学習過程	中学生用防災 e ラーニング教材 防災テーマとの関わり
<p><b>事前指導</b></p> <p>○事前指導として、「みんなで減災防災教室」では、視聴をする動画の一部に実際の映像が流れることを知らせ、災害についての学習内容に不安のある生徒は、教職員に申し出るように伝えておく。</p> <p>○事前指導後に、学習に不安を感じる生徒の申し出があった場合は、当日の参加方法について、学級担任と話をしておく。</p>	
<p>■本時の目的の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動」の一環であることに触れ、県内の学校でそれぞれに取り組んでいることを確認する。</li> </ul> <div data-bbox="165 645 927 763" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】</p> </div> <p>■学習活動</p> <p>[単元2：災害の危険性や避難先を確認しよう！]①（8分8秒）を視聴し、ハザードマップの読み取り方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型テレビを使用し、一斉に動画を視聴する。</li> </ul> <p>■学習活動</p> <p>【中学校や自宅付近に大雨が降ったら、どのような被害が想定されるだろうか。また、避難場所及び避難経路はどこを選択すればよいだろうか。】</p> <p>[町ホームページのハザードマップから、中学校の被災リスクや最寄りの避難場所及び経路を全員で確認する。]</p> <p>[各自のタブレットを使用し、自宅周辺の被災リスクや最寄りの避難場所及び経路を、個人やグループで確認する。]</p> <p>■学習活動</p> <p>[単元4：災害への備えをしよう！]②（6分56秒）を視聴し、災害への備えについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・。</li> </ul> <div data-bbox="165 1464 927 1664" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】</p> <p>次の2つの内容をまとめとして伝える。</p> <p>①命を守るために日頃からできる備えや避難のタイミングがあること。</p> <p>②本時の学習内容を家庭でも話題にし、実際にどのような備えをしているか、自分や家族にどのような備えが出来そうかを考えること。</p> </div>	<p style="text-align: right;">(●関連資料等)</p> <p>単元2「災害の危険性や避難先を確認しよう！～ハザードマップの見方や使い方～」</p> <p>●資料「単元2の指導例」  <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571721.pdf">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571721.pdf</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害からの避難方法は、危険な場所から避難をする「立ち退き避難」である。</li> <li>・洪水ハザードマップには、「計画規模」と「最大想定規模」がある。</li> <li>・自治体（市町）が指定している避難所は、対応する災害種別がハザードマップに記載されている。また、「洪水の場合、2階以上を避難スペースとして活用できる」等の条件が付いている場合もある。</li> <li>・自宅が安全な場所にある場合は、「自宅」を避難先にすることが可能。いざというときの安全のために、もう1つの避難先を考えておく。</li> </ul> <p>単元4「災害への備えをしよう！」</p> <p>●資料「単元4の指導例」  <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571725.pdf">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571725.pdf</a></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り用紙を配付し、学習を通して考えたこと、家庭で話し合ったことなどを記入する。</li> </ul>	

## 6 授業後の感想

### (1) 学習を通して考えたこと

- ・自分がどこに避難すればいいのか、避難するためにどういう経路を使えば安全であるかを確認できた。
- ・避難経路について、家族と話をする必要があると思った。その避難経路も一つではなくて、複数あった方がいいと思った。
- ・連絡手段として、SNS や 171 (災害用伝言ダイヤル) が動画で紹介されているのを見て、私は公衆電話も連絡手段の一つとして考えたいと思った。公衆電話の場所も確認しておきたい。
- ・小学生の頃も「ローリングストック」という言葉を聞いたことはあったが、今回の学習でその意味がはっきりと分かった。
- ・この町は山にも海にも囲まれていて自然災害が起こりやすい場所だと思うので、日頃からしっかり対策をしておきたい。

### (2) 家庭で話し合ったことなど

- ・小さい妹がいるので、早めの避難をした方がいいという話をした。自分たちの家庭の状況を考えて避難のタイミングを考える必要がある。
- ・私たちの家族は、マンションの高い階に住んでいる親戚の家に避難することにしている。
- ・災害の発生が、家にいる時なのか、学校にいる時なのか、それぞれでどう避難するかを考えた。
- ・夜間はスマホの充電をしておくこと、防災バックを玄関の近くに置いておくことを確認した。
- ・災害が起こってからではなく、家にいるときは日頃から 100%に充電しておこうと考え、充電係を決めた。

### (3) 家庭から

- ・防災について考える機会を作ってくださいありがとうございました。水やガスのストックについて伝えていなかったの、伝える良いきっかけになりました。備蓄の不足についても考えることができたので、子供と一緒にそろえたいと思います。
- ・豪雨の予報が出た時、お風呂の水をためたり、レトルト食品を備えておいたりする必要があること確認できました。
- ・非常食を定期的に更新し、日頃から食べ慣れることも必要と感じました。

(実際にしていること)

- ・急に多くの水を準備することは難しいので、ローリングストックで常に家族4人分の水を常備するようにしています。

## 7 中学生用防災 e ラーニング教材について

### (1) 中学生用防災 e ラーニング教材とは

風水害から命を守るために必要な防災知識を習得して定着させ、それらの知識を活用し、自分や家族に当てはめた避難等を考えることができる応用力を養うことを目的として制作したもの。

		防災テーマ
基礎	単元1	大雨や台風によって起こる災害の種類と私たちの暮らし
	単元2	災害の危険性や避難先を確認しよう！
	単元3	身を守る情報を知って行動しよう！
	単元4	災害への備えをしよう！
	単元5	防災対策における3つの主体と役割を理解しよう！
応用	単元6	大雨が出たらどうする？～シミュレーション課題～
	単元7	プラスワン演習問題集
	単元8	マイ・タイムライン (自らの防災行動計画) を作ってみよう！

## 8 活用を検討するための動画や資料

広島県危機管理監みんなで減災推進課では、作成の仕方を説明した動画や作成などに係る Q&A を、ホームページに掲載しています。

○【中学生向け防災教材】ひろしま大雨防災 e ラーニングについて（みんなで減災推進課ホームページ）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/249/hiroshimabousai-elearning.html>

- ・ひろしま大雨防災 e ラーニングとは？
- ・ひろしま大雨防災 e ラーニングを利用するためには？
- ・ひろしま大雨防災 e ラーニング使い方マニュアル

○教員用使い方マニュアル

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/572176.pdf>

○生徒用使い方マニュアル

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/572177.pdf>

○教材活用法&指導例ハンドブック PDF

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/571759.pdf>

○学習動画（YouTube）

本教材は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT：メクビット）を利用しているため、小・中・高等学校等以外の方の利用できませんが、学習動画は YouTube で視聴できます。



広島県防災キャラクター「タスケ三兄弟」

## 9 関連学習指導要領等の該当箇所

(1) 中学校学習指導要領・第2章・第7節・保健体育〔保健分野〕

### 2 内容

(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(イ)交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(ウ)自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(エ)応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

(2) 中学校学習指導要領・第2章・第2節・社会〔地理的分野〕

### 2 内容

C 日本の様々な地域

(2) 日本の地域的特色と地域区分

次の①から④までの項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①自然環境 ②人口 ③資源・エネルギーと産業 ④交通・通信

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ)日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

(3) 中学校学習指導要領・第2章・第4節理科〔第1分野〕

2 内容

(7) 科学技術と人間

科学技術と人間との関わりについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができる

よう指導する。

ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) エネルギーと物質

㉞ エネルギーとエネルギー資源

様々なエネルギーとその変換に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見いだして理解すること。また、人間は、水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識すること。

㉟ 様々な物質とその利用

物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、様々な物質が幅広く利用されていることを理解するとともに、物質の有効な利用が大切であることを認識すること。

㊱ 科学技術の発展

科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識すること。

(イ) 自然環境の保全と科学技術の利用

㊲ 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

イ 日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。

(4) 中学校学習指導要領・第2章・第4節理科〔第2分野〕

2 内容

(4) 気象とその変化

ア 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(エ) 自然の恵みと気象災害

㉞ 自然の恵みと気象災害 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。※「気象災害」については、記録や資料などを用いて調べること。

(5) 中学校学習指導要領・第2章・第4節理科〔第2分野〕

2 内容

(7) 自然と人間

自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物と環境

㉞ 自然界のつり合い

微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解すること。

㉟ 自然環境の調査と環境保全

身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解する

とともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。

㉞ 地域の自然災害

地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。

(イ) 自然環境の保全と科学技術の利用

㉟ 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

イ 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること

(6) 中学校学習指導要領・第2章・第8節技術・家庭〔第2分野〕

2 内容

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

3 内容の取扱い

ク (6) のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。また、ア及びイについては、内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連を図ること。さらに、アのイ及びイについては、自然災害に備えた住空間の整え方についても扱うこと。

【参考】解説【技術・家庭編】(P105) から 「イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。」

ここでは、安全な住まい方についての課題を解決するために、アで身に付けた基礎的・基本的な知識を活用し、安全などの視点から、住空間の整え方について考え、工夫することができるようにする。

課題については、家庭や地域での生活の中から、安全な住まい方に関する問題を見だし、その中から設定するようにする。

解決方法については、コンピュータなどの情報手段を活用して家庭内の事故を防ぐ方法や自然災害に備える方法について調べたり、幼児や高齢者がいる家族にインタビューしたりするなど、より安全な住空間の整え方について様々な視点から情報を収集して検討できるようにする。また、家庭分野及び他教科等の既習事項や、自分の生活経験と関連付けて考え、適切な解決方法を選び、具体的に住空間の安全計画を立てることができるようにする。

安全計画の評価・改善については、課題の解決が十分に図られているかなどを振り返って評価し、計画の改善について考えることができるようにする。

指導に当たっては、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、他者との意見交換などを通して、多角的に検討できるよう配慮する。例えば、家庭内の事故の防ぎ方に関する知識を活用し、家族の年齢構成などに合わせて安全対策を実践したり、家族が利用する地域内の施設の安全点検をしたりする活動などが考えられる。また、自然災害への備えについては、各家庭における危険箇所を確認したり、災害時の行動マニュアルを作成したりする活動などが考えられる。

【参考】小学校学習指導要領・第2章・第2節社会・第2各学年の目標及び内容・〔第4学年〕

2 内容

(3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

10 「中学生用防災eラーニング教材」及び「ひろしまマイ・タイムライン」に関する関連資料

- 【中学生向け防災教材】ひろしま大雨防災eラーニングについて

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/249/hiroshimabousai-elearning.html>

- 平成30年7月豪雨災害に関する県民の避難行動の調査について（総括）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/407429.pdf>

- 私たちはなぜうまく避難できないのだろうか？

（平成30年7月豪雨災害を体験した県民の方の多様で貴重な証言をもとにした行動事例集）

[https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/action/pdf/koudou\\_jirei.pdf](https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/action/pdf/koudou_jirei.pdf)

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動 トップページ

<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/about/>

・「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」条例

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soumu/soumu/kenpo/pdf27/03gatsu/g-011/20150316010001.pdf>

- 「ひろしまマイ・タイムライン」のつくり方

<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/mytimeline/making/>

- デジタル版

小学生用には、冊子版「ひろしまマイ・タイムライン」を配付していますが、冊子が無くても作成してもらえるように、デジタル版も用意してあります。

- ★各市町のハザードマップ

<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/out/public/hazardmap/>

デジタル版は、項目を一つずつ選択したり記入したりすると、「マイ・タイムライン」が完成します。

